文 教 委 員 会 資 料

所管事務の調査（報告）

「学校司書配置モデル事業中間報告について」

資料　学校司書配置モデル事業中間報告

学校司書配置による効果の検証

平成２８年１１月２４日

教 育 委 員 会 事 務 局

学校司書配置モデル事業中間報告

学校司書配置による効果の検証

１　学校司書に関するアンケート（学級担任）

２　平成 27 年度配置モデル校と全市小学校の図書貸出数の比較

３　平成 27 年度配置モデル校の貸出数

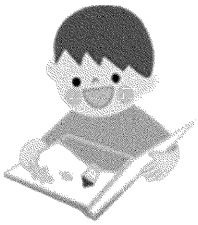
４　平成 28 年度配置モデル校の貸出数

５　児童の読書アンケート

６　学校司書に関するアンケート（校長）

７　学校司書モデル校訪問報告

８　成果と課題



平成 28 年 11 月

川崎市教育委員会

「読書のまち・かわさき」推進事業

川崎市教育委員会では、第２次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」第１期実施計画において、「読書のまち・かわさき推進事業」の中で、学校司書の配置の検討を行うことになっている。

そこで、第１期実施計画期間の平成 27 年度から３年間にわたり、モデル校を段階的に設置し、その効果の検証を行うこととした。この度、モデル実施から１年半経ち、効果の検証の途中経過をまとめ、今後検証を進める上での参考とした。

学校司書配置モデル校学校名

○平成 27 年度設置学校司書モデル校（７校）

川崎区：新町小	幸　区：西御幸小	中原区：大谷戸小
高津区：子母口小	宮前区：菅生小	多摩区：三田小
麻生区：千代ヶ丘小		

○平成 28 年度設置学校司書モデル校（７校）

川崎区：川中島小	幸　区：日吉小	中原区：下沼部小
高津区：西梶ヶ谷小	宮前区：宮崎台小	多摩区：南菅小
麻生区：真福寺小		

検証方法

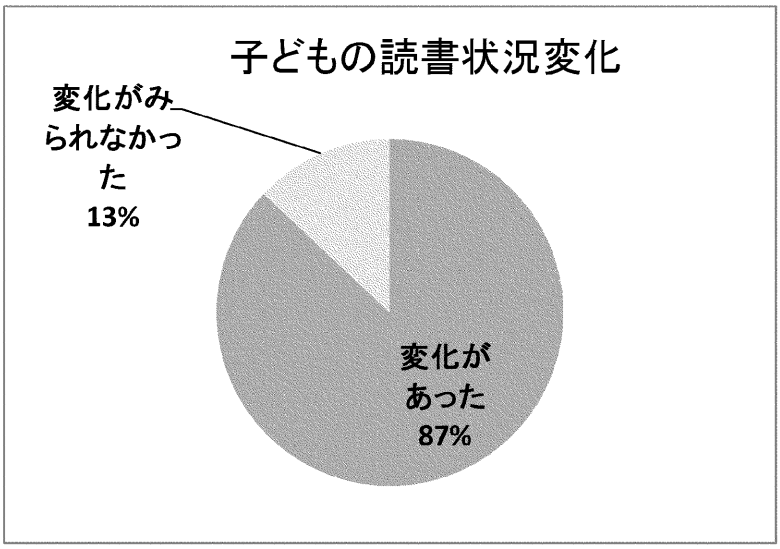
- ○　全校児童の読書アンケート
- ○　教職員のアンケート
- ○　指導主事等によるモデル校訪問
- ○　貸出数の調査

１　学校司書に関するアンケート（学級担任）

対象者　　モデル校担任　１５４名
実施日　　平成28年３月（平成27年度末）
方　法　　記述式アンケート

アンケート1　学校司書配置により、学級の子どもの読書の状況や環境に変化がありましたか。

	人数	割合
変化があった	134	87%
変化がみられなかった	20	13%



〈主な子どもの変化〉
- 学校司書へ本についての相談をするようになった。
- 図書館を利用する児童が増えた。
- 本に興味・関心をもち、読書量が増えた。
- 様々なジャンルの本を読むようになった。
- 自主的に本を活用して調べ学習をするようになった。

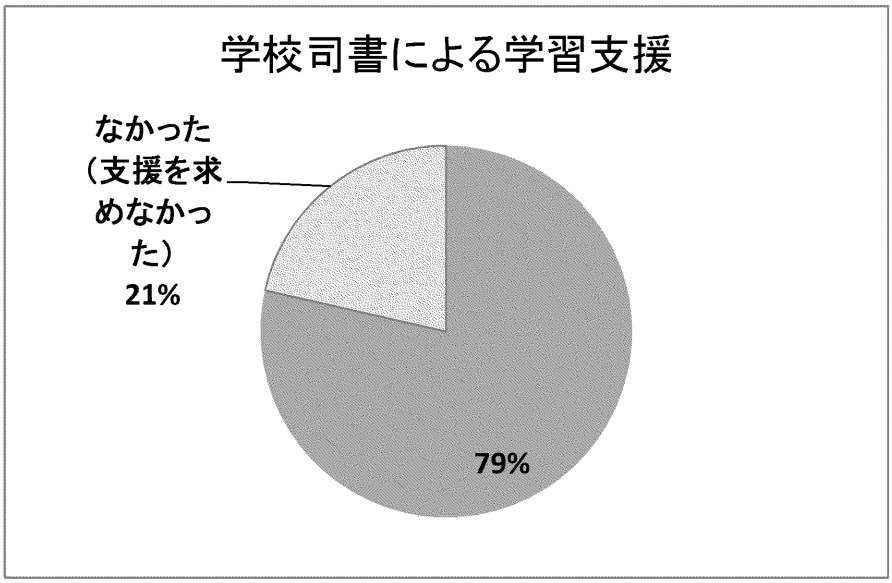
「学校司書配置により子どもの読書状況に変化があった」と回答している担任は、９割近くに達している。

その中の半数以上の担任が、「子どもが進んで学校司書へ本についての相談をするようなった。」と記述してあった。学校司書からおすすめの本や学習の関連本を教えてもらうことで、本に興味をもち、様々なジャンルの本を読むようになり、読書量が増えたようだ。

次に多かった記述は「図書館を利用する子どもが増えた。」である。学校司書が図書館に常にいることで、子ども達が安心して図書館にいくようになったようだ。また、学校司書に調べ学習に適している本を相談できるので、自ら進んで本を活用した調べ学習をするようになったという変化がみられた。

アンケート2　学校司書による学習支援はありましたか。

	人数	割合
学習支援があった	121	79%
なかった（支援を求めなかった）	33	21%



〈主な支援内容〉
- ・授業に使う図書資料の準備
- ・子どもと一緒に本を探す
- ・図書館利用のガイダンス
- ・本の紹介、ブックトーク
- ・学習の導入での読み聞かせ

「学校司書による授業支援があった」と回答している担任は、約８割に達している。

支援の内容として一番多かったのは、授業に使う図書資料の準備であった。担任と連携して、調べ学習のテーマにあった本や、国語の教科書に載っている作者の本を集める支援をしている。また、担任のリクエストに応じて、ブックトークや単元導入の読み聞かせを行い、物語へ興味を持たせる工夫をしている。

「なかった」と回答している理由として、時間帯が合わないため学校司書に相談できず依頼ができなかった、どのような支援を求めてよいのかわからなかった、計画的に相談して活用すればよかったという記述があった。学校司書と教員との連絡方法や、計画的な学習支援の工夫が必要である。

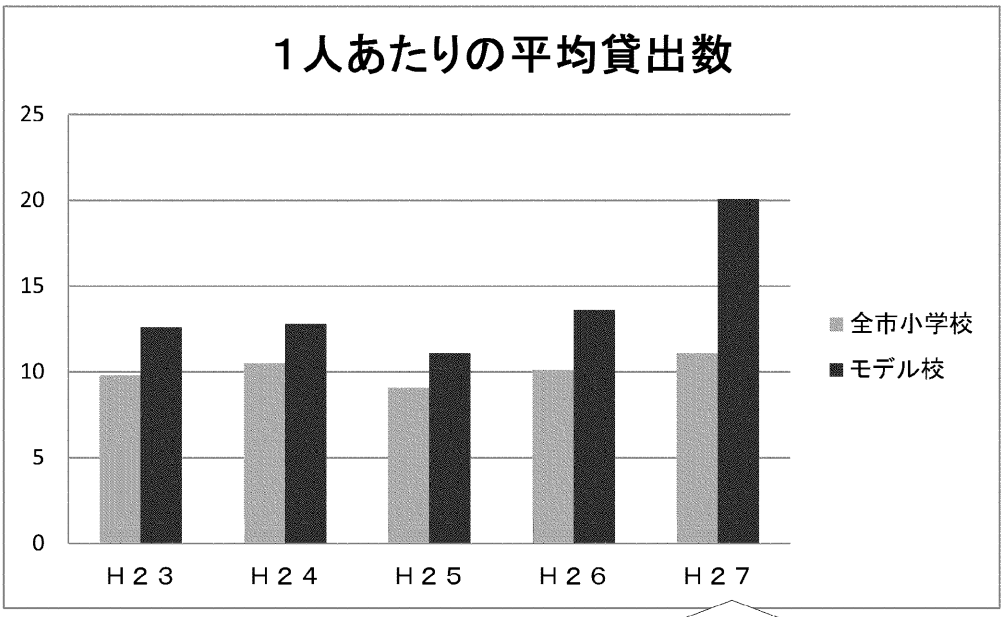
２ 平成27年度配置モデル校と全市小学校の図書貸出数の比較（１人あたり）

１人あたりの平均貸出数

（冊）

	H23	H24	H25	H26	H27
全市小学校	9.8	10.5	9.1	10.1	11.1
モデル校	12.6	12.8	11.1	13.6	20.1

＊全市小学校はモデル校の7校を除いた106校です。



平成27年度のモデル校１人あたりの貸出数は、全市小学校の1.8倍増

モデル校１人あたりの貸出数は、学校司書が配置された平成27年度が１番大きく伸びている。平成27年度のモデル校１人あたりの平均貸出数は20.1冊である。モデル校７校を除いた全市106校の１人あたりの貸出数は11.1冊である。比較をするとモデル校は全市小学校の1.8倍の貸出数である。

学校司書モデル校の貸出数が伸びた要因として以下のことが考えられる。

- 学校司書が常に図書館にいることで、安心して子ども達が図書館に足を運ぶことができるようになった。
- 調べ学習の時に、子どもが学校司書から本についてのアドバイスをもらい、自ら必要な本を借りて自主的に学習を進めることができるようになった。
- 図書館の環境整備が進み、書架の配置や特設コーナーの設置等の工夫により子どもが本に興味をもち、手にとることで一歩進んだ貸出しにつながった。
- 学校司書からすすめられる本に興味をもち、さまざまなジャンルの本を読むようになった。
- 「図書館だより」による広報やしおり作り等のイベント開催などに伴って来館児童がふえた。

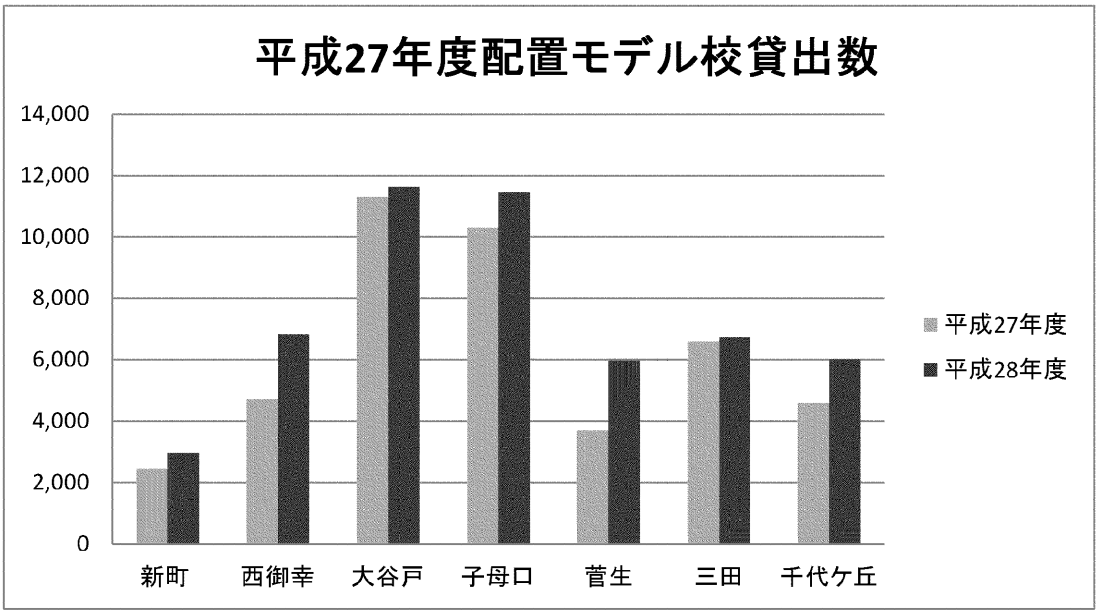
図書館の環境整備等に時間をかけ、６月から開館したモデル校があった。４月から開館していればさらに多い貸出数になったと考えられる。また、子どもの近くに本を置くためにブックトラックに入れて学級に運ぶ工夫や、市立図書館の団体貸出を利用しているモデル校があった。図書の貸出数は伸びているという事実に加え、子どもが本を手に取る回数はさらに増えていると考えられる。

３ 平成27年度配置モデル校の貸出数（４月～９月）

平成27年度と平成28年度の貸出数比較（４月～９月）

（冊）

	新町	西御幸	大谷戸	子母口	菅生	三田	千代ケ丘	合計
平成27年度	2,457	4,721	11,313	10,313	3,704	6,600	4,600	43,708
平成28年度	2,975	6,848	11,644	11,472	5,978	6,739	6,022	51,678
	1.21倍	1.45倍	1.03倍	1.11倍	1.61倍	1.02倍	1.31倍	平均1.18倍



平成28年度の貸出数は、昨年度に比べ1.18倍増加

平成27年度からモデル校となっているのは、上記の７校である。

４月から９月までのモデル校それぞれの貸出数は、昨年度と比較すると７校全てのモデル校でそれぞれ増加している。平成27年度の７校合計貸出数は、43,708冊であり、平成28年度の７校合計貸出数は51,678冊である。増加率は1.18倍になっている。

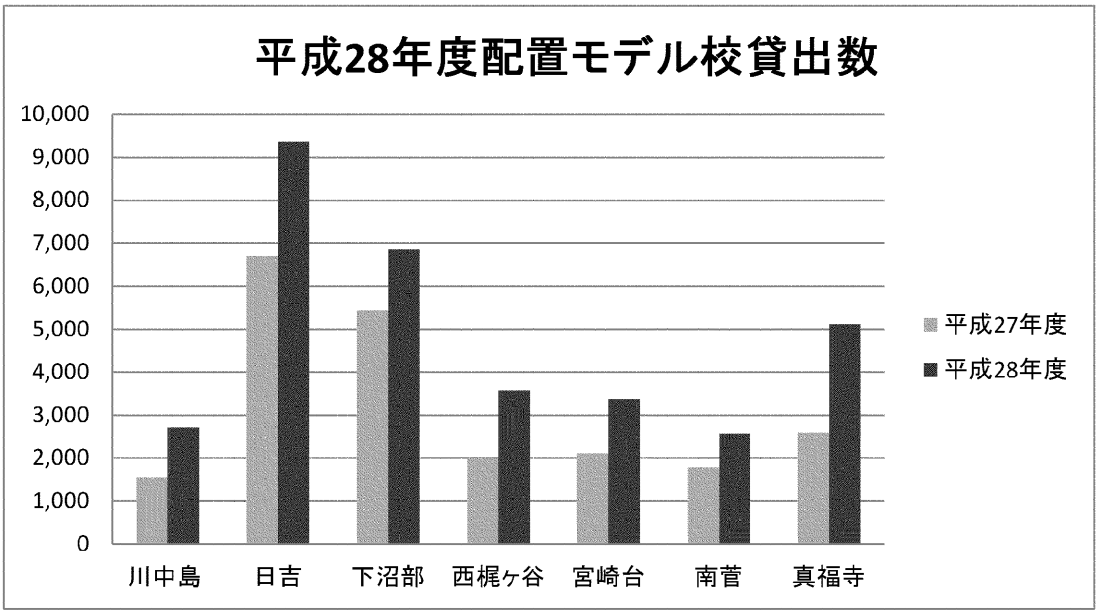
これは、モデル校２年目になり、４月から計画的に学校司書の作業が可能であったからだと思われる。また、昨年度は図書館の環境整備等に時間をかけ、６月から開館したモデル校があったが、今年度は開館がスムーズにできていることが、貸出数の増加の一因だと考えられる。

４　平成28年度配置モデル校の貸出数（４月～９月）

平成27年度と平成28年度の貸出数比較（４月～９月）

（冊）

	川中島	日吉	下沼部	西梶ヶ谷	宮崎台	南菅	真福寺	合計
平成27年度	1,559	6,704	5,440	1,996	2,110	1,791	2,595	22,195
平成28年度	2,707	9,367	6,863	3,572	3,373	2,572	5,123	33,577
	1.74倍	1.40倍	1.26倍	1.79倍	1.60倍	1.44倍	1.97倍	平均1.5倍



平成28年度の貸出数は、昨年度に比べ1.5倍増加

平成28年度に新たにモデル校となったのは、上記の７校である。４月から９月までのモデル校それぞれの貸出数は、昨年度と比較すると７校全てのモデル校でそれぞれ増加している。平成27年度の７校合計貸出数は、22,195冊であり、平成28年度の７校合計貸出数は33,577冊である。増加率は1.5倍になっている。

モデル校の貸出数が増加した理由としては、図書館の環境整備が進み、書架の配置や特設コーナーの設置等の工夫により子どもが本に興味をもち、手にとる機会が増えたことや、学校司書が常に図書館にいることで、安心して子ども達が図書館に足を運ぶことができるようになったことが考えられる。

5 児童の読書アンケート

ね ら い

児童の読書アンケートにより、学校図書館利活用の現状を分析し、学校司書の取組の成果と課題を検証する。

実 施 日　平成27年5月・11月・2月

対 象 者　学校司書モデル校7校全児童（4783名）

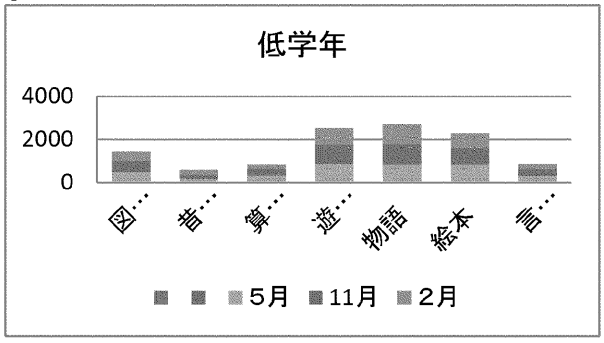
5月・11月・2月アンケートの結果

（1）どんな本をよく読みますか。

＊複数回答可

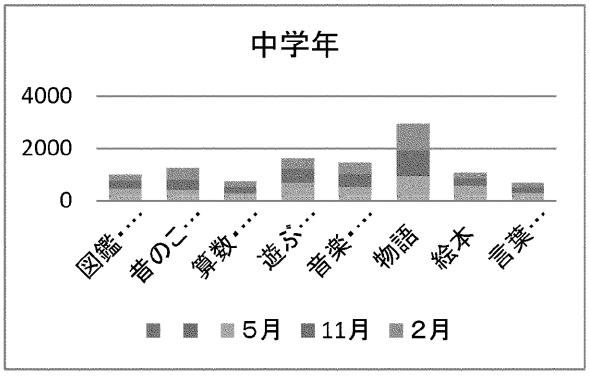
（人）

低学年	5月	11月	2月
図鑑・辞典（調べる本）	484	512	451
昔のこと・地域の様子・伝記	172	177	238
算数・理科・生活・体	318	314	205
遊ぶ本（なぞなぞやめいろ）	866	882	771
物語	840	941	924
絵本	831	753	713
言葉（詩・作文・辞典）	309	293	264



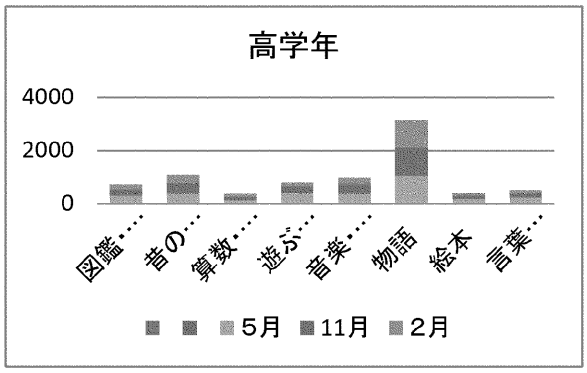
（人）

中学年	5月	11月	2月
図鑑・辞典（調べる本）	481	281	255
昔のこと・地域の様子・伝記	421	394	456
算数・理科・生活・体	298	240	217
遊ぶ本（なぞなぞやめいろ）	696	531	406
音楽・図工・スポーツ・遊び	529	505	432
物語	948	982	1024
絵本	554	308	234
言葉（詩・作文・辞典）	323	186	202



（人）

高学年	5月	11月	2月
図鑑・辞典（調べる本）	298	230	203
昔のこと・地域の様子・伝記	396	378	325
算数・理科・生活・体	143	113	121
遊ぶ本（なぞなぞやめいろ）	401	241	169
音楽・図工・スポーツ・遊び	395	329	252
物語	1054	1059	1032
絵本	185	122	107
言葉（詩・作文・辞典）	232	143	132

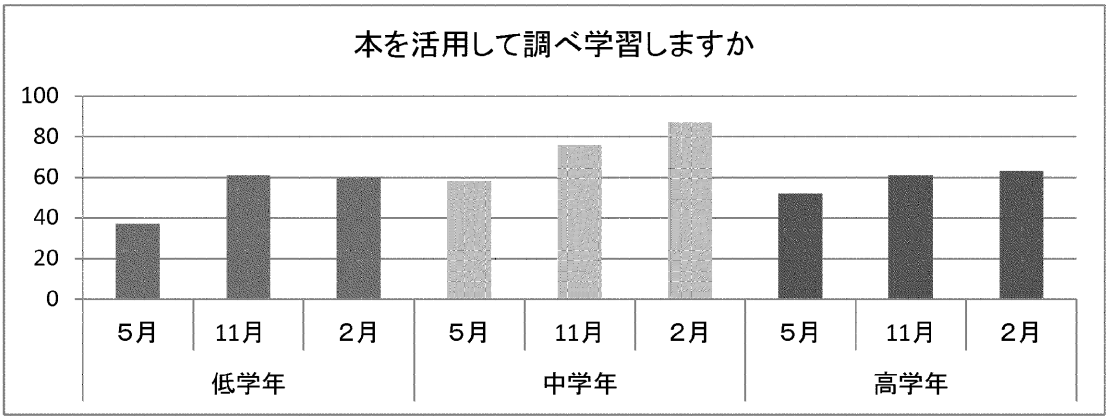


＊低学年は「物語」「遊ぶ本」「絵本」が多く読まれているが、５月よりも11月・２月の方が絵本が減り、物語が増えている。
＊中学年は「物語」「遊ぶ本」「音楽・図工・スポーツ・遊びの本」が多く読まれている。低学年同様、５月に比べると11月、２月の方が、絵本が減り、物語が増えている。
＊高学年は「物語」「昔のこと・地域の様子・伝記」「音楽・図工・スポーツ・遊び」が多く読まれている。
＊低学年から中学年になると、「遊ぶ本」は減り、昔のことなどの調べ学習に関する本が活用されるようになってきている。

（2） 学校図書館の本を活用して、調べ学習をしますか。

（%）

	低学年			中学年			高学年		
	5月	11月	2月	5月	11月	2月	5月	11月	2月
する	37	61	60	58	76	87	52	61	63
しない	63	39	40	42	24	13	48	39	37



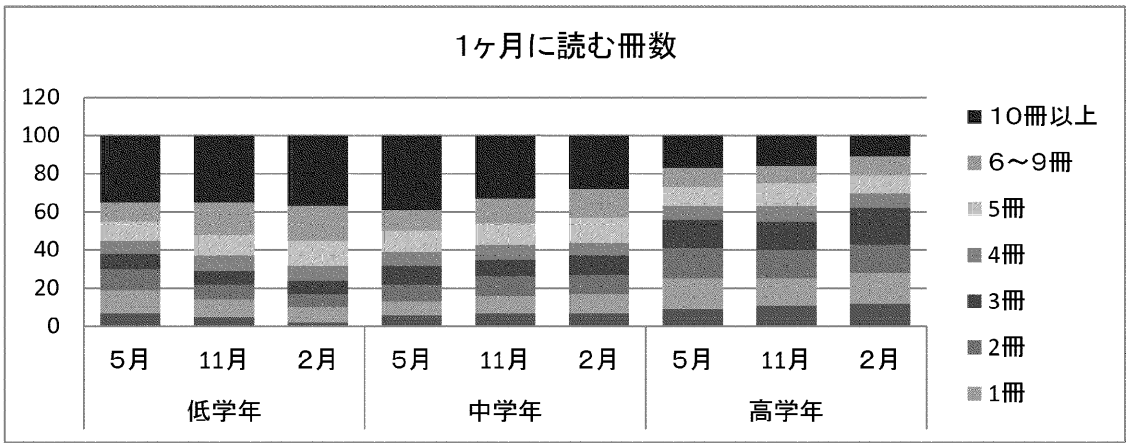
＊５月に比べると11月、２月と後期にかけて、どの学年も調べ学習のための本の活用が増えている。学校司書から本のアドバイスを受けることによって、自主的に調べ学習が進み、本の活用が増えてきたと考えられる。

＊図書館の本を活用して調べ学習を行っている割合が１番高かったのは中学年だった。総合的な学習の時間が３年生から始まることから、調べ学習の入門期にあたるこの時期が本の活用が多い理由と考えられる。

（3） 家や学校で、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

（%）

	低学年			中学年			高学年		
	5月	11月	2月	5月	11月	2月	5月	11月	2月
0冊	7	5	2	6	7	7	9	11	12
1冊	12	9	8	7	9	10	16	14	16
2冊	11	8	7	9	10	10	16	15	15
3冊	8	7	7	10	9	10	15	15	19
4冊	7	8	8	7	8	7	7	8	8
5冊	10	11	13	11	11	13	10	12	9
６～９冊	10	17	18	11	13	15	10	9	10
１０冊以上	35	35	37	39	33	28	17	16	11



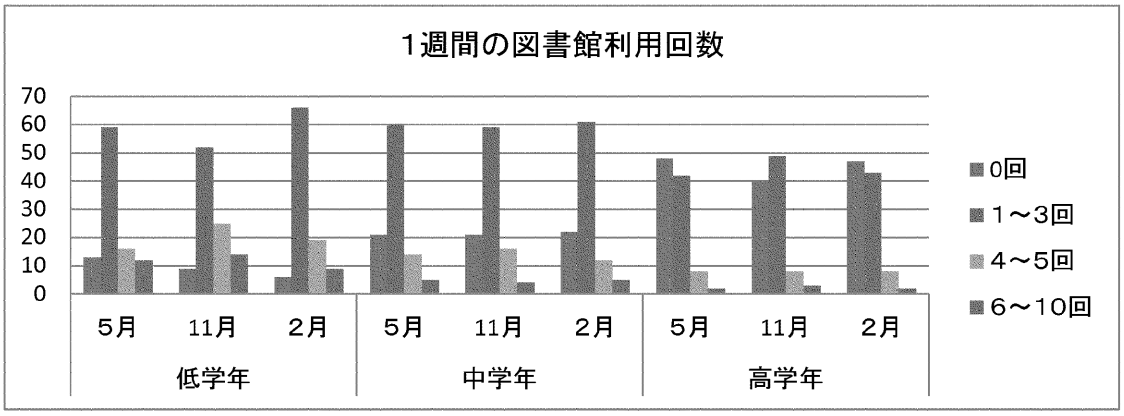
＊低学年や中学年は、絵本など１冊にかかる時間が短いので、１ヶ月で10冊以上の本を読む割合が多いと考えられる。高学年はじっくりと時間をかけて１冊の本を読む傾向があるので、冊数は低学年と比べると少ないと考えられる。

＊全学年を平均すると、１ヶ月に10冊以上の本を読んでいる児童は28%、６冊～９冊読む児童は12%である。このことから６冊以上読む児童は約40%に上ることがわかった。

（4） 授業時間や休み時間を合わせて、1週間に何回くらい学校の図書館を利用しますか

（%）

	低学年			中学年			高学年		
	5月	11月	2月	5月	11月	2月	5月	11月	2月
0回	13	9	6	21	21	22	48	40	47
1～3回	59	52	66	60	59	61	42	49	43
4～5回	16	25	19	14	16	12	8	8	8
6～10回	12	14	9	5	4	5	2	3	2

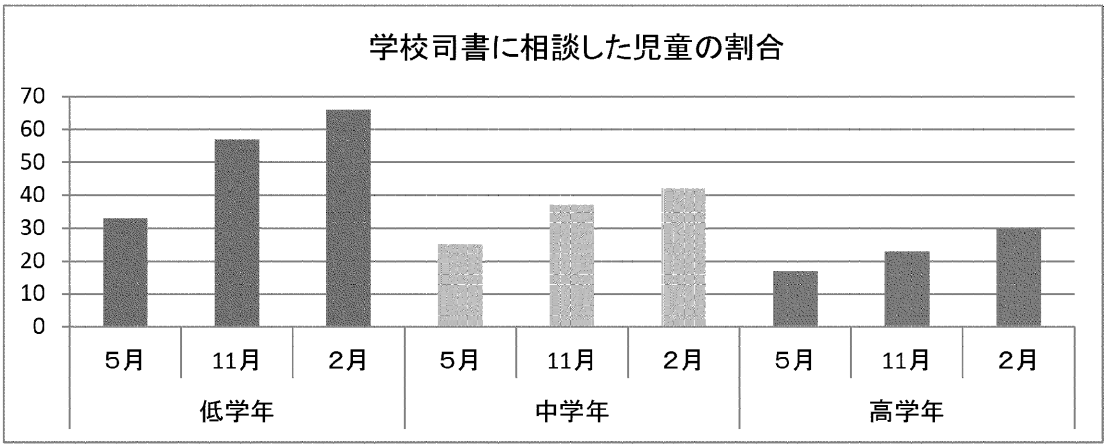


＊低学年・中学年は、１週間で１～３回図書館を利用する児童が多い。
＊低学年は０回と回答する児童が減っていった。高学年は、５月アンケートでは０回と回答する児童が多かったが、11月アンケートでは、１～３回に増えた。
＊今後さらに、学校司書の支援により、学校図書館により多くの児童が足を運ぶようになることを期待したい。

（5） 図書館の学校司書さんに、本について相談したことがありますか。

（%）

	低学年			中学年			高学年		
	5月	11月	2月	5月	11月	2月	5月	11月	2月
ある	33	57	66	25	37	42	17	23	30
ない	67	43	34	75	63	58	83	77	70



＊５月のアンケートに比べ、11月や２月のアンケートを見ると、学校司書に本の相談をしている児童の割合が増えている。いつも図書館にいる学校司書の存在を知り、安心して児童が学校司書とかかわりをもてるようになってきた。
＊高学年の児童よりも低学年の方が、本について気軽に学校司書に相談している。アンケート（4）からもわかるように、低学年よりも高学年の方が図書館への来館が少ないことが原因の一つと考えられる。
＊児童と学校司書の関係が本を通してより良いものとなり、来年度以降も学校司書の支援により、「読書センター」「学習・情報センター」として、多くの児童が学校図書館にいつでも来館し、本を活用することを期待したい。

６ 学校司書に関するアンケート（校長）

対象者　モデル校校長 7名
実施日　平成28年3月（平成27年度末）
方 法　記述式アンケート

１ 学校司書配置による成果

（１）いつも図書館に学校司書がいることによる読書量の増加
○学校司書が常に図書館にいてくれるため、開錠して明かりがついていて、図書館が常に児童を受け入れ、来館を待ってくれている状態となっている。そのため、児童が安心して来館することができたり、気軽に立ち寄ったりできるようになった。
○学校司書が中心になって、子どもたちへの読書への興味を高めるための様々な工夫（特設コーナーの設置等）を積極的に取り入れたことにより、子どもたちが本を手にする機会をもてるようになり、読書量が飛躍的に伸びた。
○学校アンケートの中の「読書がすきですか」という問いに対して、「はい」と答えた児童の割合が前年度に比べて増えた。
○夏休み期間中も開室し、図書館の活用ができた。

（２）学習に関するレファレンス機能の充実
○学校司書が児童からの本についての相談に親身になってのってくれていた。特に調べ物をしている児童にとって、学校司書のおかげで、情報センターとしての機能が増したように感じている。
○学習状況を把握し、学習に必要な本を集めてくれたので、学習時に本を使う機会が増加した。

（３）学校図書館の環境整備の充実
○児童が選書しやすいように配架が工夫された。
○季節感あふれる装飾がされるようになり、図書館に潤いをもたらしてくれている。
○ゆったりと安心して読書できる空間が創り出された。
○環境整備が充実したことで、子どもたちの読書活動に関する関心が高まり、図書館利用者も増加していった。

（４）図書委員会の児童への指導
○本の貸し借り等の作業の指導をしてもらったり、アドバイスをしてもらったりして、図書委員会の活動に広がりがみられた。

（５）図書ボランティアの総括推進
○学校と図書ボランティアの間に入って、様々な調整を行ったことで、これまで以上に連携がスムーズにいった。
○図書ボランティアと連携することで、図書館環境整備が充実した。

２ 今後の課題

○読書量の推移がわかるような掲示をするなど、児童や教職員に読書量を意識させ、指導に役立てることができるような工夫が必要である。
○学校司書の授業支援を年間カリキュラムに位置づけて、計画的に学校司書を活用していく必要がある。
○教科学習と図書館利用を関連付ける工夫が必要である。そのため、担任と学校司書との情報共有の方法を見直し、校内の校務分掌を整理や、各学年と学校司書との連携（相談・打合せ）ができるような体制を整えたい。
○図書担当教諭と学校司書が連携し、職員研修を充実させ、より充実した読書活動の啓発を行っていきたい。
○配置回数が150回のため、午後の授業に対応できない日があった。また、学校司書のいる日に合わせて先生方が授業の進み具合を調整していたので大変そうであった。

7 学校司書モデル校訪問報告

平成 27 年度の５月から５回にわたって、各 7 区の指導主事等がモデル校を訪問し、管理職や学校司書と面談を行った。あわせて学校図書館を見学し、図書館の環境整備や子ども達の様子を参観した。

校長の声

・学校司書の存在により、さらに図書館の環境が整い、明るい雰囲気になり、たくさんの子どもが図書館に集まるようになった。
・子ども達の名前を覚えてくれて声がけしてくれたり、子どもに寄り添って対応してくれたりする。
・子ども達をそっと見守ってくれて担任に伝えたり安全面の確認をしたりしてくれている。
・担任の要望をうまく受けて、調べ学習に必要な図書をまとめてくれている。
・子どもの調べ学習にもすばやく対応してくれ、学習の幅が広がった。
・学年ごとの年間指導計画や年間行事予定表を学校司書にも渡し、学習支援をしてもらっている。
・図書委員会のサポートもしてもらっている。
・長年、図書ボランティアをやってくれていたので、図書館のことが詳しい。図書ボランティアとの関係も良好で連携がうまく図られている。

子ども達の様子

・図書館に足を運び、過ごす児童が増えた。
・図書館へ行くと楽しいと言っている。
・本に関する相談を進んで司書にしている。
・本を借りる児童が増えた。
・司書がいることで授業中も安心して図書館を活用できている。

学校司書の声

・毎朝、職員室に顔を出し、先生方とコミュニケーションをとっている。
・図書担当教諭とは、休み時間や授業前、図書委員会の時に相談したり、連絡ノートのやりとりをしたりしている。
・「読書活動年間計画」の作成にあたっては、来年度に向けて、時期・学年・教科・図書・冊数等の実績の記録を残している。

学習支援

・総合的な学習の時間では、図書館で調べ学習をしている児童の支援をしている。
・学習の単元にあわせて、授業で活用できる本を学年用ブックラックに入れて教室の前に置き、いつでも活用できるようにしていたり、必要に応じて市立図書館から団体貸出をしたりしている。
・子どもに読んでもらいたい本を本の紹介文とともに目立つところに飾っている。
・レファレンスコーナーとして、図鑑や辞書など調べ学習のためのコーナーを作り、支援を行っている。
・国語の教科書に載っている紹介本や、著者の作品をまとめ、コーナーを作り子ども達が手に取れるようにしている。
・学校司書依頼申込書を用意して、授業で使用したい本などを先生方に、記入してもらい、本を揃えている。
・クラスごとに図書室の使い方のオリエンテーションを行っている。
・授業に関わっている。

（例）１年：本の並べ方、図書室の使用の仕方
２年：国語の授業で分類についての話
３年：国語「図書室の使い方」の授業を担任と一緒に行った。
５年：ブックトーク。１００選の活用。
６年：国語「やまなし」の導入で宮沢賢治の本の読み聞かせ。

８ 成果と課題

成果

児童の変化

・学校司書が常に図書館にいるため、児童が安心して図書館に来ることができるようになり、来館する児童が増えた。
・学校司書が読書への興味を高めるための様々な工夫（特設コーナーの設置等）を積極的に取り入れたことにより、児童が自ら本を手にとって、さまざまなジャンルの本を読むようになり、貸出数が増加した。
・学校司書から本のアドバイスを受けることによって、自主的に調べ学習が進み、本を活用するようになった。
・学校司書に本についての相談をするようになった。
・学校司書の助言により、図書委員会の児童の活動に広がりが見られた。

学校司書による学習支援

・授業に使う図書資料の準備を行うことにより、児童の学習活動が広がった。
・教科書に載っている作者の作品等をコーナーに設置することにより、読書の幅が広がった。
・本の紹介やブックトークを行うことにより、本に対する興味関心が高まった。
・学習の導入で読み聞かせをすることにより、作品へのイメージが深まった。
・図書館のオリエンテーションを行うことにより、図書館の利用が増えた。

環境整備の充実

・本の配架が工夫され、児童が選書しやすくなった。
・掲示物や展示コーナーが工夫され、図書館が明るくなった。

課題

・学校司書による学習支援を各教科等の年間カリキュラムに位置づけて、計画的に学校司書を活用していく必要がある。
・学校司書と担任との相談の時間が取れないことがあった。今後は、学校司書年間活動計画を活用し、司書教諭や担任とショートミーティングや相談ノートのやりとりで対応する等の工夫を行いたい。
・年間の配置が前期に集中してしまい、年度末に配置ができない学校があった。年度初めに学校が、学校司書年間配置計画を立て、必要に応じた配置を計画的に行っていく必要がある。